

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	国語・論理国語		単位数	2 単位	履修年次	2 年
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。さらに、他者の思いや考えを適切に理解できるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 読書することによって人生を豊かにする態度を身につける。 (5) 文章を書く力、表現力を身につける。					
使 用 教 材	【教科書】新編 論理国語（大修館書店） 【副教材】新訂国語図説五訂版（京都書房）、国語辞典第十一版（旺文社）					
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	実社会に必要な国語の、より高度な知識を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばしている。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりするとともに、他者の思いや考えを適切に理解している。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。			
評 価 方 法	目標をふまえ、「主体的に学習に取り組む態度」は、日々の授業への取り組みを中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査を中心に、提出物への取り組み等も含め、総合的に評価する。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	「論理と出会う」、「具体と抽象」より数篇 読書指導		・ 論理の展開をたどりながら、さまざまなテーマについての知識や考え方を深める。 ・ 読書に対する関心・意欲・態度を養う。			
2 学期	「対比をとらえる」、「主張をつかむ」より数篇 読書指導		・ 論理の展開をたどりながら、さまざまなテーマについての知識や考え方を深める。 ・ 読書に対する関心・意欲・態度を養う。			
3 学期	「統計資料を活用する」、「比べて読む」より数篇		・ 論理の展開をたどりながら、さまざまなテーマについての知識や考え方を深める。			
学 習 上 の 留 意 点	・ 授業の準備をしっかりしてください。 ・ 課題は期日を守って提出してください。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	外国語（英語）・応用英語（学）		単位数 2 単位	履修年次 2 年
目 標	・ 英文法やリスニング問題の学習を通して、適切な言語運用の知識を身に付ける。 ・ 幅広い話題の英文を読み聞きし、内容の理解・整理をし、自分の言葉で表現できる力を養う。			
使 用 教 材	【副教材】トランスファー英語総合問題演習コース A（桐原書店）、自主教材			
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	幅広い話題についての英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを整理して理解する。また英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	幅広い話題について、情報や考えなど伝えたいことを整理して、簡単な英語で話したり、書いたりして表現する。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	
評 価 方 法	・ 積極的に言語活動に取り組んでいるか ・ 幅広い話題について意見・情報を整理・表現できるか ・ 幅広い話題の英文を読んだり聞いたりして整理・理解できるか ・ 言語運用の知識を身に付け、背景にある文化等を理解しているか 以上 4 つの観点を、普段の授業・提出物、定期考査、各種テスト等で確認し総合的に評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	長文読解練習 Unit 1 時制 Unit 2 文の種類① Unit 3 文の種類② Unit 4 完了 Unit 5 助動詞		長文読解演習を通して、英文を理解し表現するために必要な文法事項を整理し学習します。多様なリスニング問題にも取り組み、英文を聞く力を養います。 また、幅広い話題の英文に触れ、学習した文法事項の確認と英文読解力や語彙力の向上を図ります。	
2 学期	長文読解練習 Unit 6 受動態 Unit 7 不定詞・動名詞① Unit 8 不定詞・動名詞② Unit 9 分詞 Unit 10 関係詞①			
3 学期	長文読解練習 Unit 11 関係詞② Unit 12 比較 Unit 13 さまざまな文型 Unit 14 間接疑問 Unit 15 接続詞			
学 習 上 の 留 意 点	英文を読み解くために必要な語彙力や文法の知識を身に付け、英文を速く正確に読み聞きする力を養います。そのためには日々の予習・復習、授業に対して積極的かつ継続的に取り組む態度が必要です。個人端末を通じてファイルを参照したり提出することなども必要になります。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	芸術・書道Ⅱ		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・表現と鑑賞の幅広い活動をとおして、書を愛好する心情を育て、書への関心を高める。 ・作品制作をとおして、主体的に自己を表現し、感じ取る力や思考する力を一層豊かにする。							
使 用 教 材	【教科書】書道Ⅱ（東京書籍） 【副教材】硬筆レッスン帳（教育図書）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		創造的な書表現をするために、書の効果的な表現技能を古典臨書から身に付け、自らの意図に基づき構想し、表現を工夫している。		文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の審美眼を高めようとしている。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、書道Ⅱに対する「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行う。具体的には、「知識・技能」では提出作品を評価し、「思考・判断・表現」では毎回提出するプリントの緻密丁寧さを評価し、「主体的に学習に取り組む態度」ではどれだけ前向きに学習に取り組んでいるかを評価し判断する。							
学 期	学 習 内 容				学 習 の ね ら い			
1 学期	漢字の書 ・隷書を知ろう ・草書を知ろう ・行草書の古典（和様の書）を学ぼう ペン字				・書とその周辺の歴史・文化を知り、漢字の変遷を理解する。 ・隷書の字形や用筆法を学び、整然と文字を並べる方法を学び、隷書の美を感じる。 ・草書の字形やリズムカルな運筆法を学ぶ。 ・日本の能書家への理解を深め、行草書の古典の臨書作品を制作し、行の流れの表現を学ぶ。 ・実用の書写能力を高める。			
2 学期	漢字・仮名の書 ・古典を参考にした作品制作 ペン字				・自分にあった古典から、その字形や線質を理解し、自己表現できる技法を習得する。 ・実用の書写能力を高める。			
3 学期	漢字仮名交じりの書 ・自己の思いにもとづく作品制作（写真とコラボレーション仕上げ） ・表現を楽しもう ペン字				・自らの思いや感動を表現する語句をえらび、写真を活用して、構成などの表現方法を工夫する。 ・自己の意図やねらいを達成するために、用具・用材と表現の関係を理解する。 ・生活の中へ積極的に書を取り入れる。 ・実用の書写能力を高める。			
学 習 上 の 留 意 点	・意欲的、主体的に作品制作に取り組むこと。 ・書を愛好し、日常生活における書への関心を高め、意欲的にその美を味わおうとする。 ・ペン字は、書写書道検定にも対応している。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（機械科）・機械工作		単位数	2	単位	履修学年	2	年
目 標	・機械技術の発達とその概要、各種の工業材料の性質について理解する。 ・工業材料の加工性や各種の加工法など機械工作の基礎的な知識について理解を深め、他の教科との関連性を深めながら、合理的な生産方法を実際に活用できる能力を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】機械工作１・２（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	「知識・技能」 機械工作に関する諸問題について関心をもち、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。		「思考・判断・表現」 機械工作に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。		「主体的に取り組む態度」 機械工作の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、自ら進んで行動する力を身につける。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、機械工作に対する「主体的に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現」「知識・技能」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、定期考査・小テストをもとに総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	機械材料とその加工性 １．炭素鋼 ２．合金鋼 ３．鋳鉄 ４．非金属材料 プラスチック等			・機械材料の性質と種類について、炭素鋼、合金鋼、鋳鉄、非鉄金属の特徴や用途について学習します。				
2 学期	鋳造・塑性加工 １．砂型鋳造法 ２．各種鋳造法 鋳造・塑性加工 ３．鋳造計画と管理 ４．鍛造とプレス加工			・鋳造の種類と各種鋳造法について、鋳造の分類とその内容について学習します。 ・塑性加工の種類と具体的方法について学習します。 ・鋳造の種類と各種鋳造法について、鋳造の分類とその内容について学習します。 ・塑性加工の種類と具体的方法について学習します。				
3 学期	溶接 １．ガス溶接とガス切断 ２．アーク溶接とアーク切断 ３．抵抗溶接 ４．その他の溶接			・ガス溶接、アーク溶接の理論とさまざまな溶接方法の内容について実用的な学習をします。				
学 習 上 の 留 意 点	・私たちの生活に不可欠な工業製品の高度化や品質の良さは、工業材料の進歩や発達に負うところが多くあります。その工業材料の基礎知識についての学習をします。関心意欲を持って授業に取り組んでください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（ロボットコース）・電子機械		単位数	2	単位	履修学年	2	年
目 標	・メカトロニクスの基礎を身につける。 ・歯車やねじといった基本的な機械の機構を理解する。 ・センサ・アクチュエータの基礎を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】電子機械（実教出版） 【副教材】自作教材（プリントなど） 【その他】タブレット							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度			
	電子機械の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。		電子機械に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。		電子機械に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。			
評 価 方 法	到達目標を踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、課題または小テストまたは単元テストまたは定期テストなどを中心に評価します。「主体的に取り組む態度」は、粘り強く理解しようと自分なりに工夫して取り組む姿勢を評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	・電子機械とは ・機械の機構 ・機械の要素			・電子機械とはどのようなものを学習します。 ・機械を動かしたり、力を伝えたりするのに必要となる機構の知識を身につけます。 ・メカトロニクス製品で使われる基本的な機械の要素の知識を身につけます。				
2 学期	・機械の要素 ・基本的な機構			・メカトロニクス製品で使われる基本的な機械の要素の知識を身につけます。 ・機械の運動や要素を組み合わせた基本的な機構について以下のようなものについて学習します。 ・歯車機構 ・リンク機構 ・機械の運動や要素を組み合わせた基本的な機構について以下のようなものについて学習します。 ・カム機構 ・巻掛け伝動機構 ・ねじ機構				
3 学期	・センサ・アクチュエータの基礎			・さまざまな量や状態などを検出するセンサと各種アクチュエータの基礎を学習します。				
学 習 上 の 留 意 点	・予習と復習をしっかりし、日々の授業を大切にしてください。 ・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（建築デザイン科）・工業環境技術		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・環境工学に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】工業環境技術（実教出版） 【副教材】建築計画(実教出版)・自主教材							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	環境工学に関する知識を十分理解できたか。環境工学基礎の内容を他の教科に応用できる力がついたか。	環境工学に関する課題に対して、幅広く柔軟に考え、的確な判断、回答をすることができるか。環境工学基礎で学習した内容を略図や文章で的確に表現できるか。		環境工学に関心を示し、その考え方や内容を的確に把握して取り組んでいるか。				
評 価 方 法	目標を踏まえ、環境工学に対する「主体的に学習に取り組む態度」については日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技能」と「思考・判断・表現」は定期考査や提出物(ノート、プリント)を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等を総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	「工業環境技術」を学ぶにあたって 1. 日本の環境政策 ・環境基本等と環境基本計画 ・循環型社会形成推進法と循環型社会形成推進基本計画 ・自然環境保全のための制度 ・環境アセスメント			・環境問題について理解し、それを解決するために様々な制度や取組があることを学習します。				
2 学期	2. 騒音・振動・臭気の現状と対策 ・感覚公害 ・騒音 ・振動 ・臭気 ・騒音の測定 3. 都市システムと環境 ・人間活動と環境問題			・建築計画上考慮すべき基本的な物理環境のうち、騒音・振動・臭気など建物内外に及ぼす影響と対策について学習します。 ・人間活動を持続可能なものにしていくために、環境工業技術の学習内容をどのように活用していけばよいかについて学習します。				
3 学期	・都市のエネルギー消費とヒートアイランド現象 ・被覆材料による日射と気温の関係 4. 住環境と健康 ・住環境 ・地球環境時代の住まい							
学 習 上 の 留 意 点	・教科書や配布したプリントあるいはノートを、忘れずに準備してください。 ・普段の授業を大切にしてください。また、提出物は期日までに必ず提出してください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業　・　ビジネス基礎		単位数　2　単位	履修年次　2　年
目　　標	ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として、 ①実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ②ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③上記の内容をふまえ、必要な基礎的な資質・能力を身につけることを目指す。			
使　用　教　材	【教科書】　　ビジネス基礎（実教出版） 【副教材】　　検定問題集			
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決ことについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して、自らビジネスについて学ぶ態度及び当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、責任をもって取り組もうとしている。	
評　価　方　法	（知識・技能）・（思考・判断・表現）定期考査を元に行う。 （主体的に学習に取り組む態度）授業ノート、ワークシート、日々の授業態度を元に行う。 具体的には日々の授業の取組態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価する。			
学　　期	学　　習　　内　　容		学　　習　　の　　ね　　ら　　い	
1 学期	商業の学習とビジネス ビジネスとコミュニケーション コミュニケーション・ビジネスマナー 情報の入手と活用		・商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解する。 ・ビジネスにおける信頼関係の意義と重要性を学ぶ。 ・ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。 ・企業活動における情報の重要性について理解する。	
2 学期	経済と流通の基礎 さまざまなビジネス 企業活動の基礎 マーケティングの重要性・資金調達 財務諸表の役割・企業活動と税・雇用		・経済の仕組みと流通の必要性について理解する。 ・ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学ぶ。 ・企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。	
3 学期	ビジネスと売買取引 売買取引の手順・代金決済 ビジネス計算 ビジネス計算の意義と応用 身近な地域のビジネス		・売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学ぶ。 ・契約の履行と締結について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。 ビジネス計算に関する知識や技術を学ぶ。 ・さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学ぶ。	
学　習　上　の 留　意　点	・商業の学習はビジネスの学習であり、このビジネス基礎はビジネスの全体像を学ぶ科目です。 そのため、卒業後の進路もふまえてビジネス計算やワープロの基礎についても学習します。 ・基礎的な知識や技術、心構えを身につけ、進路を考えるうえで、この学習を役立ててください。 ・授業の進捗状況で学習内容が入れ替わるなどの変更もあります。			

年間授業計画（シラバス）

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業・食品微生物	単位数 2 単位	履修年次 2 年 フードシステム科
目 標	・微生物の基礎知識の習得と身近な食生活と微生物のかかわりなどについて知識を深める。 ・微生物の種類と特徴を学び、増殖に必要な栄養や環境条件について理解を深める。 ・微生物代謝の基礎を学び、発酵食品にかかわる微生物とその代謝について詳しく学ぶ。		
使用教材	【副教材】食品微生物（実教出版） 自作教材（プリントなど）		
評価の観点 ・評価規準	知識・技能 有用微生物や有害微生物の形態的特徴と生理的特性並びに分離と培養に関する基本的、体系的な技術を習得しているとともに、微生物の利用を中心とした農産物の加工に活用できる技術が身についている。	思考・判断・表現 食品製造における微生物の意義と役割を十分に把握し、微生物の利用を中心とした農産物を加工できる実践的な能力が身についている。食中毒予防の思考・判断が身についている。	主体的に学習に取り組む態度 有用微生物や有害微生物の形態的特徴と生理的特性並びに分離と培養法について理解し、その分離・培養に使用する器具の取り扱いを理解している。
評価方法	目標を踏まえ、食品微生物に対する「知識・技能」と「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から行います。評価は、日々の学習状況、提出物（ノート、プリント）、定期考査などにより総合的に評価します。また、微生物実験について、自己評価・相互評価により、総合的に評価します。		
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	
1 学期	人間生活と微生物 ・微生物を学ぶにあたって ・生活環境と微生物 ・食品と微生物 ・食品微生物とプロジェクト学習	・微生物とは何かを学ぶ。微生物の特徴や微生物研究の歴史を学ぶ。 ・生活環境と微生物の関係について理解する。微生物の有効性について学ぶ。 ・発酵と腐敗について学ぶ。食中毒や感染症について学ぶ。 ・プロジェクトの進め方を学習する。	
2 学期	微生物の種類と特徴 ・微生物の種類 ・微生物の生育環境 ・微生物の遺伝	・微生物の種類を学ぶ。有用微生物の特徴を理解する。 ・微生物の菌体成分と栄養要求について理解する。微生物の生育に影響を与える因子について学ぶ。 ・DNAの構造、複製のしくみについて学ぶ。微生物の変異について学ぶ。遺伝情報の発現のしくみについて学ぶ。	
3 学期	微生物の代謝と酵素 ・微生物の代謝とその利用 ・微生物の酵素	・微生物の代謝について学ぶ。アルコール、有機酸、アミノ酸発酵について学ぶ。 ・酵素の特異性について学ぶ。酵素反応の条件について学ぶ。微生物酵素の利点と利用例について学ぶ。	
学習上の留意点	・発酵食品の加工に関する基礎的な科目である。 ・食中毒予防に必要な学習である。 ・実習で実際に食品の加工を行い、基礎知識を身につけ、実践に役立てる。 ・課題やレポートの提出は期限に遅れないように注意する。		

年間授業計画(シラバス)マネジメントコース・原価計算

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業・原価計算		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	1. 原価計算の基本的考え方と計算法及び工業簿記の記帳法を習得させ、原価についての理解を深める。 2. 原価を中心とする会計情報を活用する能力と態度を育てる。							
使 用 教 材	【教科書】原価計算 (実教出版) 【副教材】検定対応問題集を予定							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造について理解している。	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。		製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得をめざして意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。				
評 価 方 法	目標を踏まえ、「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行う。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査、小テスト等を総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	第1編 原価計算の基礎 工業簿記と原価計算 第2編 原価の費目別計算 原価の費目別計算 (材料費・労務費・経費) 第3編 原価の部門別計算と製品別計算 原価の部門別計算と製品別計算 (個別・部門別)			・工業簿記と原価計算の関係を理解させる。 ・原価要素について理解させる。 ・工業簿記の勘定記入の特徴を理解させる。 ・工業簿記の一連の記帳手続きを学習させることにより、全体的な構造を理解させる。 ・材料費、労務費、経費の意味と計算方法を理解させる。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算を理解させる。 ・製造間接費の配賦についての概要を理解させる。				
2 学期	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 原価の部門別計算と製品別計算 (総合原価計算)			・単純個別原価計算しくみを理解させる。 ・原価計算表の記入方法を理解させる。 ・総合原価計算を理解させる。				
3 学期	第4編 製品の完成・販売と決算 製品の完成・販売と決算 復習			・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解させる。 ・販売費及び一般管理費の記帳方法を理解させる。 ・個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。 ・財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成に習熟させる。				
学 習 上 の 留 意 点	・学習成果として日本商工会議所主催簿記検定2級および全国商業高等学校主催簿記検定1級（原価計算の部）の資格取得を目標としているので、その対策も行う予定である。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・こころとからだの理解		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目標	・ 自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を身につけ、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。							
使用教材	【副教材】こころとからだの理解（実教出版）							
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・ 生活支援を行う上でのこころとからだの基礎的な知識を理解できている。 ・ 利用者の生活行動についての理解ができている。 ・ 介護技術の根拠となるこころとからだとの関連や人体構造機能について理解できている。		・ こころとからだの理解をふまえた生活支援を行う判断が自らできる。 ・ 利用者の多様な生活を理解し、自立支援を考えるにあたり、適切な表現方法ができる。					
評価方法	目標をふまえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」、については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	こころとからだの基礎的理解 ・ こころの理解			・ 健康や人間の欲求とはなにかを考える。 ・ こころとは何かを考え、「学習」「記憶」「思考」「感情」「認知」「意欲」「動機」「適応」について学び、生活支援技術で必要な知識を身につける。 ・ 骨の動き、筋肉の動き、神経の働きを理解し、加齢によっておこる機能低下について理解をする。 ・ なぜ、身じたくを整えるのか考え、それに関わるこころのしくみやからだのしくみを理解する。 ・ 感染症、終末期、緊急時の心身の状態を理解する。				
2 学期	・ からだのしくみの理解							
3 学期	生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 ・ 生活動作に関するこころとからだのしくみ ・ 生活場面の変化に関するこころとからだのしくみ							
学習上の留意点	・ 科目「生活支援技術」と連携しています。ここで学習したことは、生活支援技術の授業で行う介護実技や三年次の介護実習で必要となります。しっかりと理解しましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・コミュニケーション技術		単位数 2 単位	履修年次 2 年
目 標	・介護におけるコミュニケーションに関する知識と技術を習得する。 ・介護福祉援助活動に活用する能力と態度を養う。			
使 用 教 材	【副教材】コミュニケーション技術(実教出版)			
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	コミュニケーションの基本である傾聴・共感・受容の態度で対話ができる。介護福祉援助活動は信頼関係の構築を基盤とし、法や制度を適用した社会生活を総合的に援助する活動であることを理解できる。	自分の考えを適切に表現することができる。日常生活や介護実習等を振り返り、コミュニケーションの技法や人との関係作りについて考えることができる。	対人関係に関する援助やコミュニケーションに興味を持ち、授業に意欲的に取り組んでいる。	
評 価 方 法	目標を踏まえ、コミュニケーション技術に対する「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1学期	介護におけるコミュニケーション ・コミュニケーションの意義と役割 ・コミュニケーションの基本技術 ・援助の技法とコミュニケーション		・コミュニケーションの意義と役割を理解し、人間関係の形成や他者理解、自己理解について学習する。 ・傾聴や受容、共感など、コミュニケーションの基本技術について学習する。 ・個別的な援助、集団的な援助の概要について学習する。	
2学期	サービス利用者や家族とのコミュニケーション ・サービス利用者や家族との関係づくり ・サービス利用者に応じたコミュニケーション (高齢者・視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者・運動機能障害者・知的障害者・認知症の人)		・利用者や家族との関係づくりについて学習する。 ・手話や点字をはじめ、利用者の状態に応じたコミュニケーション技法を学習する。	
3学期	介護におけるチームのコミュニケーション ・記録 ・チームによる連携 ・スーパービジョンの技法		・記録の意義や目的、活用などを学習する。 ・情報共有の必要性や他職種との関わりについて学習する。 ・スーパービジョンの必要性や面接方法について学習する。	
学 習 上 の 留 意 点	・対人援助の基本である援助技術・コミュニケーションなどに関する知識と技術を学び、実践力を身に付けます。授業には常に意欲的に取り組みましょう。 ・普段の自分自身のコミュニケーションを振り返り、学習に取り組みましょう。			